

# 病害虫発生予察特殊報 第1号

病害虫名 レタス根腐病

病原菌名 *Fusarium oxysporum* f.sp.*lactucae* Matuo et Motohashi

## 1 発生経過と被害

平成7年9月、南佐久郡川上村のレタス栽培ほ場で、定植後まもなく萎凋症状が現れ、収穫が不可能になる障害が発生した。発生ほ場では、全面にほぼ均一に発生しており、症状の比較的軽い株では外葉が一部萎れている状態であった。

平成8年8月に同一ほ場で発生を再確認したところ、同一障害が発生しており、その発生面積は約1 haであった。またその後の調査で、塩尻市洗馬地区においても同様な障害が昨年及び本年も発生していることが判明した。特に本年の発生は激しく、発生面積は7 haにも及んだ。

## 2 病原菌の分離、同定

川上村の被害株の根部を縦に切断すると、導管部が褐変しているのが観察された。さらに常法に従って根部より病原菌の分離を行ったところ、*Fusarium* 属菌が高率に分離された。これらの菌をフスマ培養し、市販の園芸培土で10倍に希釈して作成した汚染土に、レタス種子を播種して接種試験を行ったところ、発芽2～3週間後には立ち枯れ症状を示し、病原性が再現された。

分離菌は小型分生孢子及び大型分生孢子を形成した。分生子柄は短く、そこに小型分生子が擬頭状に形成された。気中菌糸は綿毛状で、色は淡褐色～紫色を呈した。以上のことから、分離菌は *Fusarium oxysporum* と同定された。

9種類の作物で接種試験を行ったところ(表1)、レタス、サニーレタスのみに病原性を示したことから、分離菌は *Fusarium oxysporum* f.sp.*lactucae* であることが確認された。本菌による病害は本橋らが昭和35年に根腐病として報告しており、昭和42年には分化型が決定されている。

また塩尻市の被害株からも *Fusarium oxysporum* が高率に分離され、病徴もほぼ同じであることから、本病であると診断された。

なお、本県での根腐病の発生は初確認である。

## 3 病徴と診断

定植後まもなく生育は抑制され、健全株との生育差は定植後2週間程度で明らかになる。重症株は萎凋し、下葉が枯れあがる。そして症状が進むと立ち枯れ、根腐れ症状を示し枯死に至る。春先等の低温期では発病は比較的軽く、初期生育が遅れるものの、結球期頃まで順調に生育する。しかし結球は不十分で、収穫が不可能となる。発病株は根部ごと引き抜き、それを縦に切断すると導管部が褐変していることから、容易に診断できる。また発病の激しいものは、外葉にも病斑が確認でき、多湿時には病原菌の菌そうに覆われる。

## 4 防除対策

- (1) 発生ほ場では、病害虫防除所、農業改良普及センターと対策を協議するが、土壌伝染によって発病する土壌病害であるので、一般的な土壌消毒は有効である。
- (2) 本病は夏季高温の作型で多発するので、この作型を避ける。また連作により発生も増加するので、多発ほ場での連作は行わない。
- (3) レタス品種間の感受性の差については、現在検討中である。

表1 レタス及びその他の作物に対する病原性

供試作物	病原性の有無
レタス	+
サニーレタス	+
ピーマン	-
キャベツ	-
キュウリ	-
ソラマメ	-
トマト	-
ダイコン	-
ハウレンソウ	-